

(別表3-3)2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(水質)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↘	↘	↘	—
[2]	HCB	↘	↘	↘	↘
[11]	HCH 類				
	[11-1] α-HCH	↘	↘	—	↘
	[11-2] β-HCH	↘	↘	↘	↘
	[11-3] γ-HCH(別名:リンデン)	↘	↘	↘	↘
	[11-4] δ-HCH	↘	↘	—	—**
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数 が 4 から 10 までのもの)				
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	↘	↘	—**	↘
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	↘	↘	—**	↘
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	—**	↘	—**	↘
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	—**	↘	—**	↘
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	↘	—**	—**	—**
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	—*	—*	—**	—**
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	—*	—*	—**	—**
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↘	—	↘	↘
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↘	↘	↘	—
[17]	ペンタクロロベンゼン	↘	↘	—	—

(注1) 経年分析は、単回帰分析等の統計学的手法を用いて実施した。手法の詳細は、中央環境審議会環境保健部会 化学物質評価専門委員会(第29回)資料 2-2 の 201~203 ページ及び 453 ページ~456 ページを参照(以下の表においても同様)。

(注2) 表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する(以下の表においても同様)。

- ↘ : 経年的な濃度の減少傾向が統計的に有意と判定されたもの
- ↘ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- ↘ : 検出率が経年的に減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- : 経年的な濃度の減少傾向(又は増加傾向)が統計的に有意であるとは判定されないもの
- * : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値(又は高値)であることが統計的に有意であるとは判定されないもの
- ** : 検出率が経年的に減少している(又は増加している)ことが統計的に有意であるとは判定されないもの

(注3) ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-4)2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質				
		河川域	湖沼域	河口域	海域	
[1]	総 PCB	↓	↓	—	↓	↓
[2]	HCB	↓	↓	—	—	↓
[11]	HCH 類					
	[11-1] α -HCH	↓	↓	—	↓	↓
	[11-2] β -HCH	↓	—	—	↓	—
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	↓	↓	—	—	↓
	[11-4] δ -HCH	↓	—	—	↓	↓
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が 4 から 10 までのもの)					
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—*	—
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—*	—	—*
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	—	—*	—	—	—
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	—	—	—	—	—
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	—	↓	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	—	—	↓	—
[17]	ペンタクロロベンゼン	↓	—	—	—	↓

(注)ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-5)2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物		大気
		貝類	魚類	温暖期
[1]	総 PCB	↓	↓	↓
[2]	HCB	—	—	—
[11]	HCH 類			
	[11-1] α -HCH	↓	↓	↓
	[11-2] β -HCH	—	↓	↓
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	↓	┘	↓
	[11-4] δ -HCH	— **	— **	↓
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数 が 4 から 10 までのもの)			
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	↓	↓	↓
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	— **	— **	↓
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	— **	— **	↓
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	— **	↓	↓
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	— **	—	↓
[16]	ペルフルオロオクタタン酸(PFOA)	— **	↓	↓
[17]	ペンタクロロベンゼン	↓	— *	—
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン類			
	[19-1] α -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
	[19-2] β -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
	[19-3] γ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン			—

(注1) 鳥類の 2013 年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がないため統計的な分析の対象外とした。

(注2) 生物のうち、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果それぞれ記載している。

(注3) 大気のうち、総 PCB、HCB 及び DDT 類は 2003 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタタン酸(PFOA)及びは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2007 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注4) ■は調査を実施した年度が少ないことから、経年分析を行っていない。